

学修目標

光学顕微鏡で組織標本の観察・スケッチを行うことで、ヒトのからだを細胞、組織、器官の各レベルで、形態的かつ具体的なイメージとして捉え、考えられるようにする。

- 教科書：解説レジメ, 課題シート, iOMac 組織像を提供する。利用にあたり本学交付の NU-MailG アカウントが必要。iPad 等の利用を推奨。
- 参考書：組織学・口腔組織学 第3版 (わかば出版)。他 図譜を実習講義で紹介。
- 授業時間：金曜日 14:00～16:50。合計14回 (含:自学習1回)。

日程	奇数グループ		偶数グループ	
4月5日	第1,2回	解説(磯川)	自学習	
4月12日		スケッチ	第1,2回	解説(山崎)
4月19日	第3,4回	解説(磯川)		第3,4回
4月26日		スケッチ	解説(山崎)	
5月10日	第5,6回	解説(磯川)	第5,6回	スケッチ
5月17日		スケッチ		解説(山崎)
5月24日	第7,8回	解説(磯川)	第7,8回	スケッチ
5月31日		スケッチ		解説(山崎)
6月7日	第9,10回	解説(磯川)	第9,10回	スケッチ
6月14日		スケッチ		解説(山崎)
6月21日	第11,12回	解説(磯川)	第11,12回	スケッチ
6月28日		スケッチ		解説(山崎)
7月5日	自学習		第11,12回	スケッチ
7月12日	第13回 試験			

- オフィスアワー：磯川桂太郎 月曜日 8:00～9:00
- 成績評価：最終回に実施の試験と解説時に行う小試験で評価・判定。受講姿勢も加味。
- 注意事項：
 - 解説は第7講堂, スケッチは指定の実習室に於いて行う。
 - 実習解説時の資料および生体組織の講義ノート, 色鉛筆 (12色で充分, 紫とピンクを多用), iOMac 組織像などを用意。白衣着用。
 - やむなき事情により実習を欠席する/した場合は, 事前/当該実習日の翌日までに自分で担当教員に連絡および出頭して指示を仰ぐこと。
- 準備学習：実習項目に関する解説は, 標本観察の前の週に行われる。したがって, その解説を必ず受講してノートやメモを採ること。そして, 標本観察の前日までに, 1) 解説講義の内容を復習し, 2) iOMac 組織像に目を通し, 3) 当日の実習課題を事前にきちんと把握して実習に臨むこと。

授業回・担当者	実 習 項 目	学 修 到 達 目 標
第1回 磯川 桂太郎 山崎 洋介 湯口 眞紀 鳥海 拓 白土 昌之 若尾 孝一 藤波 一典 篠塚 恵造 山本 晃司 金沢 紘史 鈴木 里恵	単層上皮と腺	動脈, 甲状腺, 小腸, 結腸の標本観察を通して, 単層扁平, 単層立方, 単層円柱の各上皮の顕微形態を学ぶとともに, 腺の概念を理解する。
第2回 磯川 桂太郎 他	上皮と結合組織	口唇および鼻腔粘膜の標本観察を通して, 口腔粘膜の非角化重層扁平上皮, 鼻腔呼吸部の多列線毛上皮の顕微形態を学ぶとともに, 上皮層を裏打ちする結合組織の概念を理解する。
第3回 磯川 桂太郎 他	皮 膚	耳介の標本観察を通して, 器官としての皮膚の組織構成, 角化重層扁平上皮層の細胞構成を理解する。また, 皮下組織より深部に位置する組織について学ぶ。
第4回 磯川 桂太郎 他	筋組織	骨格筋細胞, 心筋細胞, 平滑筋細胞の顕微形態を縦断像と横断像で学び, 生体内での分布や筋線維の走行を判定できるようにする。
第5回 磯川 桂太郎 他	神経組織	脊髄および脊髄神経節の標本観察を通して, 多極性および偽単極性神経の顕微形態を理解するとともに, 髄鞘を保存した切片と通常のパラフィン切片標本とで神経線維束の構成を理解する。
第6回 磯川 桂太郎 他	食道・胃	食道および胃の標本観察を通して, 消化管壁の一般構造, 筋層と神経叢の関係を理解し, また, 胃底腺の顕微形態とこれを構成する細胞の特徴を学ぶ。
第7回 磯川 桂太郎 他	膵 臓	腺房, 介在部, 導管といった外分泌腺の基本形態に照らして, 膵外分泌部の構造を理解し, また, ランゲルハンス島の観察を通して, 膵内分泌部の構造とその構成細胞の特徴を学ぶ。
第8回 磯川 桂太郎 他	肝 臓	肝組織内の管腔・小葉構造, 肝細胞の顕微形態を学び, これらの配置と血流や胆汁排出の関連を理解する。また, 類洞周囲の非実質細胞の種類や分布, 形態, 機能についても理解を深める。

第9回 磯川 桂太郎 他	血 管	動静脈壁の観察を通して、内膜、中膜、外膜に存在する細胞や構造の顕微形態や基本的な特徴を学び、筋型・弾性型の動脈の差異、動脈と静脈の相違などを理解する。
第10回 磯川 桂太郎 他	リンパ節	リンパ節内の構造を、リンパ髓とリンパ洞に大別して整理・理解し、分布する細胞の種類とその役割を、辺縁洞、中間洞、髓洞というリンパの流路に沿って整理・理解する。
第11回 磯川 桂太郎 他	気管支と肺	肺の標本で、気管支、細気管支、呼吸性細気管支、肺胞管、肺胞の観察を行い、これらを構成する細胞種やその顕微形態が、呼吸機能とどのように関連しているかを理解する。
第12回 磯川 桂太郎 他	腎 臓	腎皮質に存在する腎小体の詳細な観察を通して、尿の生成や腎内分泌機能に関わる諸構造や細胞の顕微形態を機能と結びつけて理解する。
第13回 7月12日 磯川 桂太郎 他	試 験	実習内容についての試験を行う。 実施方法やタイムテーブルについての詳細は、別途通知する。